

寺報 善 巧

発 行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

白雪山 善巧寺

昭和五十七年四月二十九日
親鸞聖人
御誕生八百年
慶讃法要

慶びの春

大谷光真御門主の御親修で親鸞聖人の御誕生八百年の慶讃法要が勤修されます。

四月二十八日 門信徒大会

午後七時から、ご門主を囲んで聞法と実践をテーマに意見発表が行われます。ご門主と親しくご対面できるめったにないご縁ですのでふるってご参集下さい。おまいりバスの送迎もあります。

四月二十九日 慶讃法要

庭儀は七百人の大行列。御親修御親教のあと、記念講演は、本山勸学、宮崎圓通師です。

法要後は花いっぱい境内で遊会。俱会一処のよろこびを味わって下さい。



慶びの春を待つ 白雪山善巧寺

四月二十八日、善巧寺本堂に於いて、門信徒大会が持たれます。御門主の前で、門信徒が、夫々に意見発表を行うと言うことは、善巧寺では初めての事です。

二十九日、内陣に於いて勤められる御親修法要の式典と、二十八日の門信徒大会。此の二つは、いわば、車の両輪のように、此の慶びの春の法要のハイライトです。

若い御門主の時代となつて、私達の宗門の至るところに、新しい息吹が感ぜられるようになっていきます。「総参拝」と言つて、全住職が、本山参拝して、御門主にお目にかかりました。今度は、全国の本派寺院を御訪ねになつて、宗門の実情を親しく把握したいとの御内意と伺っています。その一つとして、善巧寺門信徒の方々が、一堂に会して、御門主を交えて、聞法をテーマに語り合うのが、今回の門信徒大会です。

此処数年善巧寺にも、新しい息吹が、あちこちに見られ初めて居ります。これを、世代の交替と言うか、時代の変遷と言うか、親鸞聖人の「み教え」が、新しい光

門信徒大会を迎えて

のもとに、より広く、輝き初めているのでしょうか。
昭和四十八年五月、西本願寺教学振興委員会編の「現代に生きる親鸞」の中に、次のような言葉があります。

「現代は科学の発達が進み、産業の進展は著しく、人びとの生活は豊かになりました。しかし、そのためにかえって環境は公害に汚染され、人間性は失われつつあります。そして人びとは、みずからの心のよりどころを失ったかの感があります。この時にあたつて、本願の教えを明らかにし、聖人の生きられた真実の道を探ねることは、まことに意義あることであると思われまふ。」

此の度、善巧寺総代、同行、壮年層、婦人層、そして子供達が、夫々の意見を発表する門信徒大会は、画期的意義を持つ集いでありますし、是非、実りある集いに育て上げねばなりません。

住職

雪山 俊之

明教院僧鎔は何を説いたか

空
華
と
と



明教院
僧鎔伝

空華学轍の思想

勸学寮頭 桐溪順忍師

行信論(何によつて往生するか)

空華学轍の特色をもつともよく顕すものは、行信、助正の問題であらう。しかも、このことは、何によつて浄土に往生するか(行信論)宗教者の生活はどうあるべきか(助正論)の問題であつて、宗学における中心問題であり、本願寺派に多くの学派が生じたのも、主として行信の取りあつかい、特に大行の問題が中心であつたことは、いまさらいうまでもないことである。

大行論においては「大行とは能所不二、鎔融無碍の法体大行」であるというのである。この能所不二の大行という説は、法森の主張にもあるが、

ある法体名号が主体となるものであると説くのである。これが空華轍の一貫する大行観だといつてよいのである。

この主張は、

常に聖人の言葉重要視したものであつて、絶対他力の思想からい

えば、大行は如来の名号だと説明すれば、思想

としても、聖人の思想展開からいっても、説明しやすいものではあるが行巻の大行釈には「大行とはすなわち、無碍光如来のみ名を称するなり」とあり、さらに経文の引用の終わつたところには、称名

のうじよふにようゆうむげほつたいだいぎよう

能所不二鎔融無碍の法体大行

る。しかも、その所称の名号を能称の称名とは無碍一体のものであるが、その大行といわれる立場は法体の大行、如来の立場、名号の立場でいわれるものであるという学説である。

すなわち、大行といわれるものは、如来の名号であり、衆生の称名でもいわれるものであり、その名号と称名とは不離不二のものであるが、大行といわれるものは、その原点に立てば、如来の立場で

破満といつて、称名によつて衆生の一切の無明を破し、衆生の一切の志願を満す浄土往生が出来ることを明されてある。この二文は、明らかに衆生の称名を大行と示されたことは動かないものである。この文によると衆生の称名を大行とされたことは、文から見て動かすことの出来ないものであるから、衆生の称名を大行といわなければならなかつたのである。

しかし、その大行は第十七願よ

り出たものであるといつて、標準には「諸仏称名の願、浄土真実の行、選択本願の行」といつてあり本文にも「しかるに、この行は大悲の願より出たり」といつて、第十七願の五願名があげられてゐる。だから、大行とは第十七願によるものであるといふことは、極めて明白なことである。しかも、その願名はいくつもあるなかで、とくに「諸仏称名の願」の願名をもちいられてあることに注意すべきものがあるのである。この第十七願の意味からいえば、大行とは「諸仏の称名」であり、私たちにとつて所聞の名号というべきである。

この大行とは何かを示すのに、聖人は同一のところにおいて、一面では衆生の称名だといひ、また一面では諸仏の称名であつて衆生の所聞の名号だと示されてある。この意味からいえば、聖人は大行とは衆生の称名でもあり、諸仏の称名である名号でもあると表現されてゐるのである。すると聖人は衆生の称名と諸仏の称名である名号とは不二のものであると考えていられたことは明瞭である。しか

寺
ごよみ

四月

一日 お講 下村

一日 三法要実行委員会

一日 日曜学校開校式

一日 お講 栗虫

一日 三法要実行委員会

一日 三法要打ち合わせ総会

二〇日 内陣お道具みがき

二五〇日 もちつき 実行委員会

二六日 花つみ、花かざり

二七日 花かざりお莊厳

二八日 慶讃法要

二九日

五月

一日 お講 音沢

一六日 お講 音沢

も、その能所不二の不二の立場を軽くして能行の衆生の称名に重点をおいて能行系の学説があらわれ、諸仏の称名である名号に重点をおいて所行系の学説がおこつたのである。

空華学派はその両文を認め、文の意味を十分理解して、能所不二の学説をたて、しかも、大行といわれるものは、不二ではあるが法体大行であるといふのである。その意味は、大行とは諸仏の称名でも、衆生の称名でも、どちらでもいいものであるが、その主体的な立場は「諸仏の称名」であると主張するのである。



◇法要の内容
春は大谷光真門主をお迎えして

た三法要実行委員会（委員長は住職と橋場啓次氏）は、昨年十月十九日に発足して以来、毎月二度、三月には四度も集まって、着々と準備を進めています。これまでにの会合で確認された主な事項は次の通りです。

慶びの春

■宗祖誕生 800年

◇57年4月29日

■宗祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年11月3～5日

聞法の秋

春の法要

俱会一処のよろこびを...

春秋の大法要は私達の手で―と門信徒の総意を結集し

宗祖の誕生八百周年を慶ぶお祝いの法要を営み、秋は大谷光真門主とともに宗祖の七百回忌、明教院僧録の二百回忌を縁として、全門信徒が聞法の座につくことを目的とする。

◇春の行列は七百人!!

四月二十九日午前九時すぎ、花火の音を合図に中央公民館を出発する庭儀の行列衆は、三十余名の総代の持衆、同数の婦人衆、二百八十人の稚児と同数の付き添い、さらに法中、樂人に加え各団体の代表伝供衆十二名を合わせると七百名にのぼる大行列になりました。

◇門信徒大会を意義深く

四月二十八日夜の門信徒大会では寺院教化活動の現況を発表していただく他、この日を縁に仏教婦人会の結成も考えられます。積極参加をいたしましょう。

◇園遊会は俱会一処

花の荘厳の下、境内では園遊会が催され、屋台や子供向きの縁日も出ます。開店は本堂内の行事が終わり次第、ご門主もみんなと一緒に会食して下さいます。食前のことば（聖典最終ページ）お忘れなく。お弁当

三法要特別会計56年度決算

＜収 入＞	
① 55年度繰越金	2,402,923
② 56年度一般懇志	6,010,000
③ 雑 収 入	79,764
	8,492,687
＜支 出＞	
① 教 化 費	329,000
1. 日曜学校	24,000
2. 特別法座	80,000
3. 教材費	209,800
4. 雑費	15,200
② 総 務 費	676,000
1. 寺務通信費	261,000
2. 事務通合費	100,000
3. 会 雑 費	45,800
4. 雑費	269,200
③ 予 備 費	485,300
1. 建設費	270,000
2. 雑費	215,300
	1,490,300

収入 8,492,687－支出 1,490,300
＝7,002,387(繰越金)

三法要特別会計57年度予算

＜収 入＞	
① 56年度繰越金	7,002,387
② 57年度懇志	5,400,000
③ 雑 収 入	97,613
	12,500,000
＜支 出＞	
① 法 要 費	7,000,000
② 莊 嚴 費	4,000,000
③ 教 化 費	200,000
④ 総 務 費	800,000
⑤ 予 備 費	500,000
	12,500,000

法要の年の予算まひまる

は稚児関係者には二つ。門信徒に

は一つ出ます。
当日は係員の説明をよく聞いて事故やトラブルのないように、ようこそ、ようこそその俱会一処ムードでよろこび合いましよう。

三法要理事会 3・20

三法要理事会は三月二十日開かれ、五十六年度の決算報告を了承したあと、いよいよ本番を迎える春秋の大法要の予算案について、慎重な審議がくりひろげられました。

五十六年度の決算報告は別表の通りで、収入が前年度繰越金二四〇万二九二三円と五十六年度一般懇志六〇一万円、雑収入を合わせると八四九万二六八七円となり、当初予算より約三〇万円減でした。

支出の面では教化費が予算二〇〇万に對して、決算は三二万九〇〇円とかなりふえました。これは全門徒への聖典配布など教材費の増大からきたものです。

春秋の大法要の法要費として、七〇〇万二三八七円が確保され、当初の計画通り、着々と準備が進められることになりました。

次に、五十七年度予算案ですが、収入はいまの繰越金と、五十七年度の懇志を合わせて一二五〇万円を見込みました。この中には、法要当日の門信徒の方からの志や、内陣法名、内陣莊嚴等に対する特別懇志、さらに今秋から来春にかけての寺費、一般懇志などがふくまれています。

支出の面では、法要の当日経費が春秋合わせて七〇〇万円、内陣境内等の莊嚴費に四〇〇万円をあけています。

法要費については前年度の繰越金でそっくりまかなわれますが、莊嚴については、前卓、戸帳、打敷等の内陣莊嚴、さらには雨どいや当日の境内の莊嚴に最低四〇〇万円の費用が必要で、これに関しては、門信徒の積極的な協力が待たれます。

慶びの春 ■宗祖誕生 800年
◇57年 4月29日
■宗 祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年 11月3〜5日 聞法の秋

法要日程

四月二十八日
門信徒の集い

時分

一八、〇〇 梵鐘

一八、四〇 御門主御着

一九、〇〇 おつとめ

真宗宗歌（聖典89頁）

らいはいのうた（53頁）

生活信条（1頁右）

一九、二〇 開会

意見発表

自由討議

御門主お言葉

二一、〇〇 恩徳讃（91頁）

四月二十九日
慶讃法要勤修

六、〇〇 梵鐘

七、〇〇 晨朝勤行

正信偈（聖典3頁）

七、三〇 法話

七、五〇 御門主御着

慶讃法要出仕の顔ぶれ

寺史刻む七百名大行列

門信徒大会意見発表者

鬼原勝次（総代）佐々木与作（総代）尾沢初雄（世話方）本波光雄（お経会）中山慶太郎（宇奈月夢を語る会）二口民子（善巧寺若婦人会）八木ふみえ（日曜学校）

神衆

▽先導 佐々木助一、川内作一▽仏旗 佐々木繁作▽神衆 佐々木与作、野村五郎、松平源治、野崎吉郎、野崎吉明、橋場正一、清水久一、橋爪伊左夫、大藪春男、菊地良造、本波光雄、野島重一、中村嘉太郎、中村与四松、沢田修明、岡田実、上坂好次、岩上己之助、鬼原勝次、浦達友一、板川進、板川安二、川瀬達也、川瀬久義、島田久一、島田松伊、板倉弘、板倉正一、尾沢初雄、浦田安次郎、浦田一郎、植木幸次郎、船屋幸弘、東孤幸一、根塚卯一、開沢弘、開沢泰久、藤沢正雄、中坂宗作、中坂由松、板沢重盛、森岡昭二、谷口小一郎、浦山久雄、山根清一郎、大野弘恵、橋場啓次、婦人衆 本波ひさ、板沢はる、田中まつえ、河村としい、朝倉さくら、佐々木やよ、佐々木みよ、佐々木つや、佐々木つよ、野村こと、北川トキエ、大藪トキエ、浦瀧はなえ、尾沢はる、佐々木つや、鬼原つか、鬼原よしえ、鬼原マツエ、山本きくえ、本波ときえ、橋ちや、中みさ、中やよ、河村やえ本波のい、高田春枝、開沢菊枝、水越みよ、菊地れい子、本波富枝、橋照子、佐々木よすい、佐々木ひな、沢田あい。

御門主付

山本浅次郎、櫻義孝、野畑一雄。

稚児

森千晶、森玉井、橋本邦子、橋本和志、川内慎太郎、佐々木裕美、佐々木孝司、岡田浩延、尾沢建一、尾沢実、川内富代、川内康弘、谷口実果、谷口雄亮、谷口勝彦、高島康之、川内ただし、川内まき、川内り子、川内けい子、川内飛鳥、北條貴裕、野島栄子、野島幸子、熊野重梨香、熊野博文、鬼原学人、鬼原幸治、五十里智宏、鬼原園美、大浦清和、大浦古都美、川内しずか、佐々木ゆかり、橋場有香、岡田智奈、岡田智穂、田中美絵、田中真希、大菅陽雄、岡田美文、元野加奈子、田中誠、田中真理子、林哲也、有馬佳明、有馬聡美、谷哲成、川内和也、村上和由、村上征弘、村上知矢、中朋子、南貴之、西中建訓、山内誠、森尚樹、岡田明子、森康彦、丸田おりえ、谷越寛彰、谷越さゆり、谷越賢誌、丸田尚史、丸田悟、丸田くるみ、鳴田奈緒子、鳴田美幸、岩田和巳、鳴尾智子、鳴尾悟志、鳴田宏樹、鳴田亜紀子、広田勝、広田泰江、島田達也、五十嵐郁恵、鳴田圭吾、鳴田尚子、鳴田幸花、鳴田剛士、鳴田聡史、鳴田有希、鳴田まゆ子、鳴田いづみ、鳴田雪絵、鳴田優紀美、鳴田

知子、鳴田久恵、大野昌之、瀬川裕、尾村由加里、尾村加奈子、鳴田隼人、鳴田幸子、松島州一、松島静香、松沢澄子、開沢智美、開沢卓広、開沢正徳、開沢勇人、開沢大樹、開沢英樹、高島すみ子、朝倉琴音、板沢考洋、們加奈恵、們真佐樹、開沢学、開沢英輔、小路嘉親、鬼原省治、鬼原みか子、橋洋章、橋俊秀、八木隆典、大林春奈、入江真紀子、中易純香、松本照幸、松本友久、浦瀧勝秀、浦瀧真理子、浦瀧和香奈、原露美、熊野直美、們成弘、佐々木愛、佐々木大輔、河村良子、岡田雅宏、中山聖子、丸田雄亮、丸田幸美、佐々木友和、佐々木静花、佐々木洋次、川内静恵、川内己津江、藤井春美、藤井直大、南宮かをり、南宮正樹、岡田健宏、谷口博美、中めぐみ、本波俊人、尾村達弥、尾村真司、板川亜由美、板川和也、板川雅和、鬼原辰治、高森雄、高森寛、板川巧、板川弥生、板川ゆかり、板川典也、板川由希子、栗沢伸二、板川沙織、島山あさみ、本吉陽介、本吉俊介、中村英司、中村円、木下龍司、魚沢友紀美、魚沢江梨子、高川春菜、高川夏希、島倉和也、魚住武司、岩上弥知子、山本邦彦、折川静穂、石川あけみ、高田優子、沢田ひろゆき、沢田ゆきえ、谷村雅美、佐々木一志、佐々木英明、池森菜二、佐々木理絵、森田尚子、清水卓也、山本慎司、山本祐司、谷口朋子、谷口陽一、野崎敬介、佐々木幹年、佐々木愛、佐々木里奈

沢田大作、新保洋介、宮崎久義、宮崎江理、鬼原いづみ、長谷由布子、鬼原大輔、鬼原友実、新保秀樹、新保友理、佐々木梓、橘志麻、橘信吾、清水美沙子、清水亜希子、吉田美香子、吉田敦子、宮崎ルミ、五十嵐有里、谷川三恵、谷川幸明、藤井容子、藤井忠彦、藤井典子、長沢里佳、川原真友美、立花淳夫、立花誠一、有馬奈美子、有馬啓、浜松茂信、中村直也、林由香理、林幸司、魚沢しずか、白島祐也、藤沢里美、上野健、開沢文子、野村玄、藤沢由起子、島田久子、藤沢友紀子、藤沢久子、藤沢芳弘、開沢尚人、山口絵梨香、川瀬雅人、長田佳美、白島加菜子、朝倉恭子、朝倉邦友、朝倉朋子、佐伯奈緒、山室晃、佐々木季子、中易美雪、丸田百恵、滝本美穂、丸田貴、丸田静生、杉林英明、杉林代明香、清水恭平、小川まゆか、河村村香、開沢早苗、松原和子、中真司、善積真吾、善積辰也、善積直之、中村志津香、中村香織、新保博子、遠藤誠、池田陽子、西島洋子、西島弘勝、西島友美、浦田裕美、中谷俊晴、西田圭伸、高島円、佐々木利治、高島卓二、佐々木金樹、本波昭子、吉枝雅史、藤田千夏、中村まさえ、本波洋子、野崎志保、石川孝明。

— 4 —

三月十六日 火曜日 晴のち曇
昨夜、雨風が吹き荒れていたようだったが、今朝はもう晴れ上がつている。お講当番の析沢の衆が、早朝から台所で声高に話している。春の気配について誘われて、朝食前に庭下駄をはいて庭を歩いて見る。何カ月ぶりのことだろう。あるかないかの残雪が、離れの前に見られる。これも、此処一両日のうちには融けて無くなるに違いない。
杉の下は春蘭をのぞく。蕾が十幾つ。毎年同じ処に同じ姿で、此の春蘭は、三十年以前から続けて咲いてくれる。石楠花も、花芽が成長している。本格的な庭造りは、まだまだ先のことだろうが、土を

- 八、〇〇 稚児受付(中央公民館)
- 八、二〇 帰敬式(本堂)
- 九、〇〇 帰敬式終了
- 九、一〇 法中衆人お支度(公民館)
- 九、二〇 稚児整列(公民館前)
- 九、三〇 花火、梵鐘
- 一〇、〇〇 行列出発
- 一〇、〇〇 行列到着
- 一〇、三〇 御親修法要
- 一一、二〇 御親教
- 一一、二〇 記念講演
- 本山勸学 文学博士
- 宮崎園遊会
- 二二、〇〇 園遊会(境内)

シエ、大蔵助雄、谷口吉丸、谷口嘉枝子、川内武夫、川内笑子、川内幸七、川内信子、川内幸美、川内菊子、谷口武義、谷口きよ、橘照子、川瀬義雄、川瀬恒子、浦山みき、嶋田一郎、嶋田よしえ、橘爪芳雄、橘爪百枝、東狐節、東狐千代、東狐和子、西中正一、西中きくえ、新保和子、新保しかり、寺崎嶺、寺崎ゆり、丸田雪江、野畑松二、野畑みのり、丸田梅老、丸田きみえ、丸田久次、丸田みさを、山本静雄、山本とし江、藤澤のぶ、藤澤きよ、嶋田久子、嶋田正男、嶋田イト、嶋田正一、大野こと、瀬川久作、瀬川みね、浦滝俊雄、浦滝多美子、浦滝政司、浦滝ミツ、浦滝善造、浦滝玉枝、丸田きくろ、丸田良作、丸田君榮、長澤はな、船屋幸吉、船屋幸弘、

船屋昭子、根塚豊春、根塚二三子、本波祥伸、本波洋子、本波瑞子、本波眞知子、本波春次、本波芳枝、北川トキエ、鬼原哲子、開澤弘、開澤好子、八木武吉、八木キクイ、中村うた、河村俊幸、河村まさ子、和田みさ子、中林清幸、中林キヨミ、岩上はるえ、能登ときえ、本波正人、本波文子、清水はな、川口久夫、川口和子、川口ユリエ、板川安二、板川久松、板川伊左次郎、板川スイ、板川由二、板川俊人、板川のぶ、鬼原勇、鬼原美枝子、川瀬正一、川瀬ヨシエ、武田孝治、武田まさい、虎谷田鶴子、森岡栄一、森岡和子、森岡はな、板澤栄作、中くさ、橋場洋子、尾崎絹子、橋勉、橋信子、橋賢一、橋章子、川内隆義、山本浅吉、福沢弘、福沢久美子、橋爪みつ、橋

爪淑子、橋爪栄、橋爪和子、丸田ます、大野澄子、野崎邦宏、野崎静枝、野崎きよ、内島弘之、内島澄子、岩崎整、岩崎政子、板谷賢作、板谷和子、野崎吉郎、野崎淑子、橋場正子、瀬川亨、瀬川きく江、板久雄、佐々木あきの、水落美恵子、高島レイ子、佐々木進、佐々木ともえ、橋澤良雄、大蔵森吉、橋場ふよ、橋場俊夫、橋場鈴乃、橋場丈夫、橋場喜代美、本波才一、佐々木与三平、佐々木こと、川内秀夫、川内枝子、板川誠一、板川ツナ、山本正義、山本芳子、岡田栄一、岡田美恵子、高島ゆき子、谷口律雄、谷口恵子、佐々木作盛、佐々木敏子、久田智登司、久田英子、山本一永、山本しき、山本辰義、山本ますえ、野崎夏枝、野崎みさ子、野崎勝一、大蔵りよ、

鍛きみ子、山本市次郎、鬼原政榮、鬼原笑美子、大坪喜八郎、大坪すずる、山根要造、有馬国男、有馬なつえ、松平寿美、尾澤清司、尾澤駒子、尾澤正敏、尾澤梅子、川瀬久義、川瀬アキヨ、谷口正、谷口登志子、松平源蔵、松平あき、長沢ひさえ、二口実、二口幸子、野村智恵子、中きみ、川内寅次郎、川内よしえ、川口三郎、川口つや、清水喜一郎、清水律子、福沢孝治、福沢初枝、野崎吉久、上坂はな、船屋利子、船屋昌子、川内勤治、川内伸子、野畑美知子、鬼原直次、中山たか、佐々木碩夫、佐々木一二三、山本彦由、山本まり子、谷口吉男、谷口和子、橋新作、角本きよ、松平幸正、松平正子。

住職日記



入れてから三年、苔が少しずつその面積を拡大している。
孫達は、七時半にはもう登校だ。此処一カ月、次から次へ流感に罹って、誰かが、頭痛、発熱、咳、等々に苦しんだ散々の有様だったが、目下の処、お蔭で安泰だ。朝食を済ませ新聞に目を通していると、九時半になる。
十時から法要実行委員会。出席者三十名。今月は、一日、十一日に続いて三回目である。日時切迫するにつれて、話合われるテーマもより具体的、より

臨場的になり、盛り上がりを見せる。今回は、法要当日の持ち場、持ち場の担当者、責任者の名簿を中心に意見交換。お稚児さんの申し込みが二百五十を越えたとの報告。当日の中央公民館から善巧寺迄の華やかさが想像される。
十一時半よりお講のお勤め。終わって説教は例によって「蓮如上人御一代記聞書」何時もより聴衆の数が増加しているのも春めいて来たためか。
法輪寺の運転で三日市へ急ぐ。十二時半より、ロータリー例会。

第四百二十五回と週報にあるから、私のようなチャーターメンバーは、四百回も此処で昼食を共にしたことになる。卓話の当番にあたっている「歎異抄」の話をする。
終わってドクターに行き、血圧を測って貰う。異状なし。流石も流石に下火になったようで、待合室の混雑も納まっている。此処に来ると、何時も何名かの門徒の方と顔を合わせる。電車にて帰宅。着替えて書齋にて寺報原稿。夕食七時。就床九時。
一隅の春蘭 庭を 正しうす
大鍋の春の菜 匂う お講寺

寺

六月

一日 お講 東狐・上野
特別法座 利井興弘師
八日 野休み落語会 おなじみの永六輔さん。今年はどうな話かとび出すか。落語は入船亭扇好さんと初参加の古今亭圓菊さん。さらに初参加の、漫才コンビ「花」のけい子、好江さんそして、トリは、芸術祭奨励賞に輝く、われらが入船亭扇橋師匠というプログラム。お代は例によってザル回し。新五百円玉を三ツ四ツ五ツ。おさそい合わせの上どうぞ！
一六日 お講 音沢

三月十一日の太子会で

の東狐義之さん、下村の大藪守さんの五人。

島田さんは五十二年春、老朽化した本堂の屋根や経蔵、庫裡の力べなど第一期の修復工事を進んで引受けて下さった方。

寺から感謝状を贈られたのは、板屋の島田竹次さん、

本波さん二人は翌五十三年、第二期の新築工事（門徒集会所、空華殿等）をりっぱに仕上げて下さった方。

東狐さんはその新築工事の設計をして下さった方。

人さん、中新



☆ 四具足

浦山の野島義昭さんととよさん親子で。ご本尊前の四具足をご寄進



下さいまし
た。写真の
中央手前が
火舎、奥が
ろうそく立
両わきを華
瓶といいま
す。

☆火鉢
大藪守さん。本堂の大火鉢がこわれて困っていましたら今回の法要

記念にと

神代栴の見
事な火鉢を
ご寄進下さ
いました。

お参りの折
はあなたも
ひとなでみ
がいて下さ
い。



☆
朱
傘

福井のヒサノ法衣店。御導師の道中などにかざす色あざやかな朱傘です。春の法要では、野畑一雄さんが御門主にかざして庭儀に色どりをそえます。

お	お	雪	壮	婦	お
経	曜	ん	年	人	経
の	学	子	会	会	の
会	校	劇	会	会	会
第一・第三土曜日	毎月一日・十六日	毎週月曜四時	毎月第二土曜日	毎月第一月曜日	毎月第一・第三土曜日

五年から今春まで本堂、庫裡、経蔵移転、車庫新築、境内整備などの多くの最後の仕上げを引受けて下さった方です。

いずれも善巧寺の門徒の方ばかり

りで、こうした方のおかげで寺は見事に生まれかわり、心のふるさととして、聞法の道場として十分な機能を発揮するようになったのです。

白鵠会慶びの春にはばたく

4・28 門信徒大会で発足

白鵲びやくこ会——白く美しい極楽の鳥の名をいただいて、いま善巧寺の仏教婦人会が大きくはばたこうとしています。

内陣の前卓のご寄進を門信徒の
ご婦人方にかぎって進めているう
ち、この寄進人の方々を中心し
て、寺の仏教婦人会を発足させら
れないものか—ということになり
ました。

発足は春の法要の門信徒大会の席上とし、毎年数回、研修会、講

演奏や旅行会などを催す予定です。現在、こうした趣意に賛同し、ご協力いただいている婦人方は四十名余りで、今後さらに輪を広げ、て慶びの春の発会式に臨みたいものです。入会希望の方はお早めに申し込み下さい。懇志の額は問いません。四月二十九日には、この白鵠会の会員に「婦人衆」として庭儀の行列に参加していただくことにしています。

お参りのみなさまへ

❖おしゆずと聖典、式章 あれば
お忘れなく。❖車でこられる方は
寺の東方五〇〇米の中央公民館周
辺に。❖おべんとうは稚児一人につ

き二つ。他は案内状に同封の引換券で一つ。足りない方は当日境内にうとんそばなどの屋台が出ます。

◆当日は事故やトラブルのないように、みんなで力を合わせて、よろこびの輪をひろげましょう。



合掌

このたびの法要のシンボルマークが二つあります。

花に丸。これは明教院僧鎔を祖とする空華学派のシンボルで、学僧たちが空華の学問を学んだ印として、焼判で押してもらったそうであります。今回はお参りの皆さんに差し上げる手さげ袋に刷り込みました。



左のマークは、蓮の花びらを型取ったワッペンに合掌する手を図案化し、上に仏教のシンボル「法輪」をあしらったものであります。私達は仏教徒であり、念仏者であるという自覚を高めていただくため、参拝者の胸につけていただくことにしています。